

静岡県漁業協同組合連合会

1002 静岡市追手町 9-18

14.7.19 ☎ 054-254-6011

編集・発行 = 指導部漁政課

1. 本会第2回テングサ共販開催される

本会では、去る7月10日テングサ事業の第2回入札会を賀茂出張所において開催し、入札結果は次のとおりです。

数量：9,915kg(397本) 取扱金額：13,713千円 平均単価：13,829円(10kg当たり)

最高入札価格：大川まくさ(粗) 18,110円(10kg当たり)

この結果、第2回までの取扱い累計は数量40,817kg、1,635本(対前年比4,864kg、193本増)、取扱金額37,969千円(同3,960千円増)、平均単価9,302円(同157円安)となりました。

なお、次回(第3回)の入札会は7月31日(水)を予定しています。

2. 焼津漁協新超低温冷蔵庫建設始まる

焼津漁協(西川徳市組合長)では、去る7月8日新焼津漁港に増設する新超低温冷蔵庫(保管温度マイナス65 庫腹量2千トン)の地鎮祭と起工式を建設予定地において漁協、県、市、工事関係者約40人が出席し行われました。

新冷蔵庫は、刺身用冷凍マグロ類を保管する冷蔵庫として二次冷凍方式を採用し保管温度はマイナス65 (1,000トン2室)で品質管理に万全を期したもので、平成14年度水産物産地流通加工施設高度化対策事業により国、県、市の助成を受けて総事業費約5億9千万円で建設するもので、完成は来年3月を予定をしています。

3. イセエビの新蓄養法開発

イセエビなどの蓄養を行っている漁協では、禁漁期を前にした4月～5月は在庫を確保したい時期ですが、数年前から春先に斃死が増え大きな問題として改善が求められていました。このため、水産試験場伊豆分場と伊東市漁協では4月～6月の海水温に当たる17～20で斃死率が高いことを突き止め、同漁協富戸支所蓄養部の実証試験では、熱帯魚の水槽にヒントを得て、断熱材で保温効果を高めたアワビ用の10トン水槽を活用して砂底のバクテリアが残さを分解するとともに、砂底のパイプから海水を汲み上げ水を循環させ、海水温が17に上昇した4月中旬からヒーターで水温を23に上げ一定に保ちました。

従来は、残さ浄化のため一定時間おきに換水が必要でしたが、新方式では1日中保温浄化した水を使い続けることができコスト面では、加熱、保温分を考慮してもポンプの稼働率が低い新方式の方がコストが低く、さらに実験した2ヶ月間で従来型設備の斃死率が15%だったのに対し新システムではわずか5%となりました。

また蓄養量は、従来型では海水1トンに対し20kgであったのに対し、新方式では25kgに高めることができました。漁協では、水温が低くなる12月から再度新方式による実証試験

を行なうことにしており試験結果が注目されています。

4. 漁業就労者センターニュースの創刊 県下漁協に直接FAX流れる

沿岸漁業就労者確保育成センター(JF全漁連漁政部)では、このほど活動内容の紹介と浜の漁業者との情報交換を行なうため、随時センターニュースを発行することになりました。同センターでは、今年も「漁師の仕事をもっと知ってもらうためのフェア」を7月28日大阪、8月3日東京で開催を予定しており、求人をPRしたい漁協、船主を募集しています。なお、全国で約50名の研修生が漁業技術習得のため現在奮闘中で、漁業の担い手として採用を検討する漁協、経営体もでてきています。

この件に関する問合せ先はJF全漁連漁政部(電話(03)-3294-9613)まで。

5. クロマグロの完全養殖を達成

近畿大学水産研究所では、さる7月5日かねてより研究を続けていたクロマグロの完全養殖を世界で初めて達成したことを発表しました。

同大学では、これまで32年に亘り養殖研究を重ねてきましたが、今回産卵が確認されたのは平成7年に人工ふ化させ飼育してきた7歳魚6尾と8年生れの6歳魚14尾合計20尾です。

産卵は、直径30メートル、深さ約10メートルの生簀、親魚の大きさは、70kg～150kg、体長135センチ～200センチで、6月中旬から産卵行動が確認され、6月23日を皮切りに7月3日までに合計約107万粒を採卵、ふ化には約40時間かかり、現在までに先月採卵した分の約20万粒のふ化仔魚を得ています。

マグロ類の養殖は、大型で設備や費用がかかること及び高度回遊性の魚類で活動量が高いこと、取扱いが難しいことなどから研究が遅れていました。今回、人工飼育のクロマグロが産卵したことで、人工ふ化 - 人工飼育 - 採卵 - 人工ふ化という生活史を全て飼育下で行う完全養殖のサイクルが初めて技術的に確立されたこととなります。

完全養殖の達成は、天然資源の減少が心配されワシントン条約で捕獲を規制しようとする動きが出ているだけに今後のクロマグロ資源増強に朗報といえます。

6. 口坂本の森クラブ活動行われる

漁民の森づくりの一環として行われている、口坂本の森クラブ活動が、去る7月6日日本会、県信漁連、由比漁協婦人部、県生協連より7名が参加し、梅雨の合間をぬって行われました。今回は、これまでに植林した山ザクラ、クリ、コナラ等の成長を促すため、これら樹木周辺の下草刈りを県中部農林事務所担当者の指導のもと約2時間汗を流しました。次回は、季節の最も良い11月に植生調査、植物観察会等を予定しておりますので、県下漁協関係者で関心のある方は本会漁政課まで連絡をください。

7. 諸会議・日程 (7月23日(火)～8月5日(月))

- 既報分省略 -

7月23日(火) 県漁連 = 協同組合間提携協議会 (ブケ東海)

7月26日(木) 中部太平洋まき網漁業協会 = 総会 (伊豆長岡町)